Make your own environment

BRING™

1.5
April
2022

BRING™
TALK SESSION 1

Mila Hasegawa × BRING™

BRING™ディレクター・中村が、多彩なゲストとともに、「サステイナブルファッションの“今”」を語る対談企画。第一弾となる今回は、Z世代の若者を中心に人気を集め、2020年にはBRING™とのコラボレーションも実現した、オールジェンダーブランド「JAMESIE」のデザイナーで、モデル・女優としても活躍する長谷川ミラさんをお迎えし、「サステイナブルな服作り」に対する想いを伺いました。

罪悪感をバネに、環境にも人にも優しい服作りに挑戦

中村　ミラさんは、ブランド活動やソーシャルメディアを通して、いつも積極的に「サステイナブル」、「SDGs」について発信されていますよね。サステイナブルファッションに目を向けたきっかけは何だったのでしょうか。

ミラ　ロンドンの大学に留学中、Tシャツを作るのに約3000リットルの水が必要なこと、衣類の繊維によっては、洗濯の際にマイクロプラスチックが流れ出てしまうことなど、ファッションが地球環境に与える影響を初めて知りました。私は留学前に自分のブランドを始めていて、Tシャツを作っては売って、作っては売ってということを繰り返していたので……。クラスメイトの誰よりも、環境に悪いことをしているなとショックを受けました。

中村　当時は何枚くらいTシャツを作っていたんですか？

ミラ　ポップアップイベントでの販売も含めると、1万枚近くは作っていたと思います。それで、すごく罪悪感が湧いてきてしまって……。ブランドの商品を買ってくださるフォロワーさん達には、害のないものを届けなければと思い、一旦ブランドをストップしました。

中村　服を買うことに対しても意識が変わりましたか？

ミラ　変わりました。しばらく古着以外は買わなくなりました。でも同時に、ニューヨークのファッションウィークに行く機会もあり、大好きなマーク・ジェイコブスのショーに呼ばれて、お洋服を着させていただきました。その時の「うわー！」っていう感覚は、今でも忘れられない。「まさか自分がマーク・ジェイコブスのお洋服を着る日が来るなんて」という気持ちでした。服の持っている力って、人を一瞬でハッピーにさせたり、自信を持たせたりすることだと、袖を通した瞬間に思い出したんです。私もこういう服が作りたい、なおかつ環境や人にとって優しいものを作りたいと考えるようになりました。

中村　まさにそこが、うち（BRING｜JEPLAN）が掲げる「正しいを楽しく」というキーワードと共通しています。そうやって服を着てエモーショナルな気持ちになるのは、とても重要なことです。それを止めてしまうのは、少し変なんですよね。環境を良くするために抑制し、人間の楽しみを奪っていいのかっていう。

ミラ　人間もハッピーになりつつ、誰も苦しめないものが作れたらいい。ある意味矛盾はしていると思うんです。でもサステイナブル業界って矛盾だらけだと思うから、私は「それは矛盾です」と堂々と言います。そのうえで、出来るだけ正しく、出来るだけみんなをハッピーにできるよう努力を続けています。

中村　その矛盾は悪いことではないです。短い期間で見たら矛盾なのかもしれないけれど、例えば新しく作る服を少しずつ環境に良い素材にし、使えなくなったら回収する。そして、その素材でもう一度服を作る。というように、長期的に見れば矛盾していないですよね。少しずつ少しずつ良くしていくことが大事だと考えています。

ミラ　課題解決に急ぎすぎず、長い目で見ていきたいですね。私はBRING™のことを知り、服をリサイクルしてできた素材ならばと、BRING Material™を使ってもう一度服作りへのチャレンジを始めました。

中村　BRING Material™の素材を使いたいと、若い世代のブランドさんから随分お声かけいただくようになってきました。今後は私たちがインキュベーターとなって、若手の方々と一緒に成長していけるような仕組みを作っていきたいと思っています。

ミラ　楽しみ！ 横のつながりを大切に、どんどんコラボレーションしていきましょう！

SNSが、世界を知るきっかけに

中村　これまで主にファッションの世界で活躍されてきたミラさんですが、今の日本のファッション産業には、どんな課題があると感じていますか？

ミラ　ファッションが環境問題や人権問題に繋がっているということを、まだまだ知らない人が多いなという印象です。ファッション産業は、畜産業の次に環境負荷が大きい産業です。また、生産現場での過重労働といった問題もあります。ヨーロッパではみんなが当たり前のように知っていた情報が、あまり日本では話題にはならないんですよね。みんな、まさか自分の着ている服が、そんなに悪いものだと思っていないのでしょう。日本に関しては、そこが一番の大きな課題だと感じています。

中村　昔は日本で羊を飼って、日本で毛を刈って、日本で糸を作って……というように、たとえばウールの生地を国内のサプライチェーンで全て作ることができていたんです。経済が成長していくと、そういった一次産業の力が弱くなって、やらなくなる。やらなくなると実態が見えなくなる。

ミラ　ある意味「平和ボケ」とも言えます。世界では、今少しずつ動き始めてるんじゃないのかな。海外のコンシューマーは声を上げることに抵抗がないので。

中村　SNSでの発信が活発ですよね。疑問に感じたことはまずSNSに上げるじゃないですか。今やSNSでいろんなことが分かるから、デジタルネイティブな若い世代が、そういった環境問題や人権問題に強く関心を抱くのでしょう。

ミラ　「日本は海外から遅れている」とよく言われていますが、リサイクルに関しては突出して技術があります。こういった技術をきっかけに、ファッション業界において、日本が世界を引っ張っていける存在になったらいいなぁと思います。

サステナビリティをもっと身近に、もっと楽しく

中村　BRING™とJAMESIEは2020年にコラボレーションアイテムを発売、2021年6月には、高島屋新宿店でのBRING™ POP UP SHOP会期中に、ミラさんをゲストに迎えたトークセッションを開催しました。今後は、BRING™とどんなことでコラボレーションしたいとお考えでしょうか？

ミラ　もっとイベントを開催したいですね。高島屋さんでのトークセッションのようなイベントを、日本全国を回ってやりたいです。サステイナブル素材の製品ってまだあまり市場に出回っていないから、「サステイナブル」と聞いても、どんなものか想像できないじゃないかと思うんです。だからこそ、実際に触れて、体験できる場所を提供するべきです。

中村　服を買い替えるのは、どうしても季節の変わり目や、気分変えたりするタイミングになってしまう。私たちも毎日サステイナブルを伝えられる場所として、カフェ的な空間を作りたいなと考えています。移動販売車に乗って、地方巡業するのも良いですね！

ミラ　それと私も、Tシャツのボディのデザインからやってみたいなぁ。そのボディを使って、ブランドを持っている若い子たちを集めて、一緒に共同プロジェクトとかできたら面白そう。

中村　是非一緒に進めていきましょう！ ミラさんご自身の今後のビジョンも聞かせていただけますか？

ミラ　えー。明日のことしかいつも考えていないので（笑）。JAMESIEとしては、若い世代の方が手に取りやすい価格で、環境問題や社会問題の解決に参加してるって感じてもらえるようなブランド作りをしたいと思っています。私個人としては、元々お芝居をやってたので、そろそろお芝居もう一度やりたいなぁと思っていて……。

中村　お芝居というと、ドラマや映画ですか？

ミラ　私は舞台のほうが好きです。日本の舞台ってすごく面白いんですよ。今ブランドのほうが上手くいき始めているので、そちらはそちらで回していけるようなチームを作って、私はまた舞台に立ちたい。それに向けて、ダンスや歌の勉強もしています。海外のモデルさんや女優さんを見ると、「活動家」という肩書きではなく、「女優」や「モデル」という肩書きがあったうえで、そのまま社会問題への貢献や発信をしている。だから私も環境活動家になるわけではなく、あくまでも自分の主軸はエンターテイメントの世界に持ちつつ、環境問題や社会問題に対する活動もできる人になりたいです。

中村　そちらのほうが、生活と社会貢献が繋がっている感じがしますよね。サステイナブルのためのサステイナブルって行き詰まりますから（笑）。何もかも、止めてしまうしかない。畜産も止めよう、服作りも止めようみたいな。

ミラ　極論を言うと、何もできなくなってしまうじゃないですか。環境のことだけを考えたら、「今の生活を辞めて、サバイバルしてください」ってなっちゃう。そうではなくて、自分の生活に無理なく組み込めるものでないと。

中村　まさにそれは、「サステイナブルを楽しむ」というBRING™のコンセプトに通じていますね。

BRING™は、地球を着まわす服を服からつくるブランドです。

BRING™は、毎日の生活と自然の中で生き延びるための服をつくります。そして、その生活を続けていくために、様々なブランドと一緒に使わなくなった服の回収を行い、自社工場で服の原料に再生し、再び服にまでなんども循環させるサーキュラーエコノミーを実現しているブランドです。

そして、サーキュラーエコノミープラットフォーマーとして、循環した服の原料をBRING Material™と呼び、多様なブランドへの原料供給を行っています。また、ポリエステルをモノマーに分解し再度ポリマーにまで循環させるBRING Technology™(pat.)を様々なステークホルダーにライセンスしています。

いつまでも、なんども続けられるBRING Technology™

わたしたちが大事にしているのはいつまでも、なんどでもリサイクルすること。これまでは PET（=ポリエステル）ボトルを繊維にリサイクルする方法はありました。でも、その繊維をリサイクルする方法はほとんど無く、一度しかリサイクルできていなかったのです。いつまでも、なんども続けられるケミカルリサイクルによる、BRING Technology™(pat.)を開発しました。

何度でも循環する、山で穿けるデニム
AnoDenim Jeans
XS-3XL / ¥19,800

生地ムレさせない、色落ちもさせないジーンズ

AnoDenim
Jeans ¥19,800 / Coverall ¥24,200
Totebag ¥11,000、¥14,300

“AnoDenim（アノデニム）”は、高温多湿な日本でも生地のムレも色落ちも気にせず、「もう一度あの日あの時のあのデニムを着たい」そんな思いからできたシリーズです。まるでデニムなのにポリエステル100%。色落ちしないので買ったときの色のまま、ずっと着続けることができます。

古着屋で発見する1点ものを再生ポリエステル100%で再現

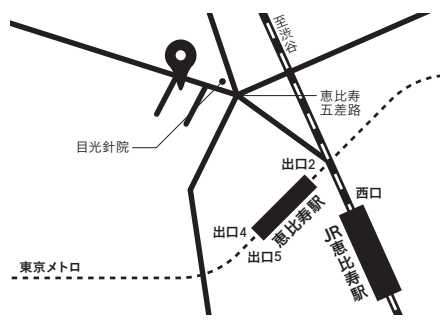
新しい古着™
BRING T-shirt Basic DRYCOTTONY ¥6,730

「学生の頃は着れたけど、どうして人が着た服を着なきゃいけないんだろう……」そんなことを感じたことがあるあなたに贈る、新しく作った古着。新品のスウェットを製品染めし、古着屋で「1点もの」を再生ポリエステルで再現。一点一点が、色、風合い、サイズも違う。でも抗菌・防臭、再生ポリエステルBRING Material™を使用し、見た目は古着、中身は全く新しい。

みんなが愛してやまない、水陸両用ハーフパンツ

DRYCOTTONY TEX.
TRAIL SWIM Shorts ¥8,800

BRING™の再生ポリエステルを100%使用した、水陸両用のバギーズ丈パンツです。速乾性・耐久性に優れ、春先から炎天下のハイキング、海や川でのアクティビティに活躍する万能アイテム。濡れてもすぐに乾くので、生乾きの匂いも気になりません。コットンタッチの柔らかな質感、タフタ調の光沢ある風合いは、タウンユースにも活躍。左右、後ろの3ポケットも嬉しいポイント。

SHOP

150-0021
東京都渋谷区恵比寿西2-9-8 大澤ビル1F
open Wed,Thu,Fri,Sat 12:00-19:00